

子どもと育つ

いつでも どこでも 受講できる



近所の喫茶店でパソコンを開き、講義を受ける秀野ゆかりさん＝大阪市で

女性の知識欲にマッチ

インターネットを使って、いつでもどこでも学べる通信制の大学・大学院が増えていく。「eラーニング」という学び方で、時間や場所の制約が少ない。育児や仕事との両立や、再就職などのためのスキルアップを目指す女性たちに人気だ。

(井上圭子)

「台所ですっぴんのまま授乳しながら講義を視聴。子どもが寝たらディスプレイにも参加する」
大阪市のソフトウェア制作販売会社社員、秀野ゆかりさん(30)は、一年半の産休育休期間を有効活用しようと、二〇〇六年十月の出産と同時に、経営学の大学院「ビジネス・ブレイクスルー大学大学院」に入学、二年間で経営学修士(MBA)を取得

ネットで eラーニング

した。
夫の留学に伴い三歳の長男を連れて〇八年、英国に渡った元法律事務所事務員の若杉直子さん(30)は、ビジネス英語を学ぶ同大の公開講座をネットで一年間受講した。

eラーニングは、パソコンを使い生中継される授業や、繰り返し見られる録画授業で学ぶ通信制教育。双方向も特徴で、授業中に担当教官に質問したり、同級生たちと討論もできる。
八洲学園大学で一年かけて図書館司書の資格を取った島根県安来市の荒銀恵美子さん(30)は「ライブ配信授業中に酔った夫が友達と帰宅、やむなく離席する事情を実況したら教授から『げんかしないでね』とメール

を活用した授業を「遠隔授業」と認めた二〇一〇年の学校教育法に基づく大学設置基準の改正を機に急増。〇九年までの十年間で、社会人向け通信制大学・大学院は二十校から五十二校へ約二・五倍に増えた。

私立大学通信教育協会によると、女性比率は通学制では約四割なのに対し、通信制は約六割と高いのが特徴。中心年齢層も三十一・五十代と高く、社会人女性や主婦が多い。専攻は仕事で即戦力につながる医療、教育、経済系分野が人気だ。

八洲学園大学の高鷲忠美教授(図書館学)は「eラーニングは、意欲と明確な目標があり、自分のお金と時間を割いて学ぶので大変熱心。脱落者もほとんどない」と学生たちの特徴を指摘する。

三人の共通点は、通いたい大学などから遠方に住み、子育て中で通学は難しいが「学びたい」という意欲が強かったこと。秀野さんは「大阪からでもリアルタイムで東京の教授や全国の同級生と熱く議論でき、つながっている実感があつた」と言う。学費は通常の大学・大学院より少し安い程度だが、受講の場所や時間を選ばず、通学費も不要な点が強みだ。

社会人向けのこうした通信制の大学・大学院は、少子化による大学側の生き残り策に合致、高齢化による生涯学習への関心増もあって一九九〇年代半ばから増え始めた。インターネット

高鷲教授は「『集客しやすい』と始める大学は多いが、パソコン初心者も多い。しっかりとサポート体制をつくらないと学生は続かない」と指摘。「大学を選ぶ際は、学業の面倒見はいいか、パソコンの技術サポートは手厚いか、リアルタイムで質問や意見が言えるかなど調べてほしい」と助言する。